



栃木県立真岡北陵高等学校



所在地 〒321-4415 真岡市下籠谷396
電話 0285-82-3415
FAX 0285-83-4634
URL <http://www.tochigi-edu.ed.jp/mokahokuryo/>
創立 明治41年
課程 全日制課程
設置学科 生物生産科・農業機械科・食品科学科
総合ビジネス科・教養福祉科(平成31年度～介護福祉科)
生徒数 551人(男子254名 女子297名)(平成30年5月1日現在)
利用交通機関 真岡駅からバス10分

I 学校の概要

1 沿革

明治41年、芳賀郡立農林学校として開校し、昭和23年に栃木県立真岡農業高等学校と校名を改称。平成7年に栃木県立真岡北陵高等学校と改称すると同時に、総合選択制専門高校として学科改編。平成19年度に創立100周年を迎えた。

2 学校教育目標

- (1) 将来の地域産業を担い、地域の発展に貢献できる人材を育成する。
- (2) 産業技術の専門家、高度化、国際化に柔軟に対応できる将来のスペシャリストを育成する。
- (3) 礼節を尊び心身ともに健康で、人間性豊かな職業人を育成する。

3 目指す学校像

- (1) 体験的学習をとおして実践力の育成を図るため、地域との連携を重視する学校
- (2) 卒業後すぐに実社会で活躍できるよう、資格取得・検定試験などへの取り組みを積極的に進める学校
- (3) 規範意識・道徳心を養い、豊かな心と健康な体をつくる学校

4 募集する生徒像

本校の教育目標・目指す学校像を理解し、本校を強く志望するとともに、その動機・目的が明確で、次の(1)から(4)までのすべてに該当する生徒

- (1) 志望する学科の特長をよく理解し、進路実現に向け、自ら学ぶ意欲をもっている生徒
- (2) あいさつ・服装・時間を守るなど、基本的な生活習慣が身に付いている生徒
- (3) 本校での学習に対応できる基礎学力と学習習慣が身に付いている生徒
- (4) 本校での諸活動を積極的に実践し、常に自己研鑽に努めようとする強い意志をもっている生徒

5 施設・設備の特徴

普通教室棟・特別管理教室棟のほかに、農業学科・商業学科・福祉学科の専門的な科目を学習する施設・設備が充実しています。さらに、学校周辺の約16万4千㎡の広大な敷地には、水田・果樹園・温室・豚牛舎等があり、緑豊かで学習環境に大変恵まれています。

II 学校、学科、教育課程等の特色

1 学校の特色

本校は、平成30年度に創立111周年を迎えた歴史と伝統のある高等学校です。「今日あるを感謝し、最善をつくす」の校訓のもと、生徒たちは一日一日を真剣に勉学と部活動等に取り組んでいます。

各学科では、その専門学科と関連する資格取得に挑戦できるようなカリキュラムが組まれており、実験・実習中心の体験的な学習を多く取り入れ、一人ひとりが学ぶ楽しさを味わうことができます。また、充実した施設の中でバイオテクノロジーやコンピュータ・介護技術などを学ぶことができます。さらに、他の学科の専門科目も含め、興味・関心に応じて幅広く学習することができるよう、多くの選択科目を用意しています。(介護福祉科は、学科の特性から設定していません。)



制服(夏服・冬服)

2 各学科の特色

(1) 生物生産科

生物生産科ではイネ、トマト、イチゴ、ブドウ、ナシ、シクラメンなどの栽培や、乳牛、肉牛、豚の飼育に関する学習を行います。1・2年次に「作物」「野菜」「果樹」「草花」「畜産」の各部門を学習し、3年次にその中から1部門を専攻します。農業に関する専門的な知識・技術を身に付けるだけでなく、日々、農業の楽しさや面白さを実感しながら学習しています。また、多くの生徒が危険物取扱者やフォークリフト、溶接などの専門的な資格の取得を目指した学習に取り組んでいます。授業で育てた生産物は、学校祭や農産物販売会で販売したり、一般の市場や給食施設などに出荷したりして、地域の皆さんに好評を得ています。小学校への出前授業、地域ボランティア活動（花壇植栽、プランター設置、販売会）へ積極的に参加したりすることで、通常の授業では学ぶことができない体験をしています。

これらの経験が社会に出てからも役に立っており、卒業生は業種を問わず各方面で活躍しています。農業系大学への進学者も多く輩出しています。



共進会での入賞（畜産）



ナシ摘果実習（果樹）



田植え実習（作物）

(2) 農業機械科

農業機械科では、農業に関する機械（トラクタ、コンバイン、ハーベスタ、乗用モア等）の整備・運転操作・機械加工といった農業現場で活用できる学習を行います。1年次は作物栽培などの実習、2年次からは農業機械の整備や加工といった体験学習が中心となっています。特に、「総合実習」は、3年間継続して学ぶ科目で、農業機械の構造や操作方法、旋盤・フライス盤やガス溶接・アーク溶接を利用した金属加工等、様々な技術を身に付けることができます。この成果の1つとして、本校は栃木県溶接コンクールにおいて毎年入賞者を出しています。また、「課題研究」では地域貢献をテーマに地域と連携を図った研究に取り組んでいます。これまで、市貝町芝桜公園におけるシバザクラ補植用電動ドリル・アタッチメントの開発、Honda エコマイレッジ チャレンジ50ccカブバイク部門に参加した他、真岡鐵道の要望で作成した「自動灌水器付きプランター」が栃木県児童生徒発明工夫展覧会において金賞を受賞しました。今後も地域に根ざした取り組みを続けていく予定です。



エンジン分解・組立て



旋盤加工実習



トラクタ運転操作



アーク溶接実習

(3) 食品科学科

食品科学科では、農産物の加工や製造技術及び販売指導や品質管理、衛生管理を重点目標に学習します。実習では、地域の方から大人気の味噌やパン類、めん類、ジャム類、ウインナーソーセージなどの肉加工品を製造します。他にも、スポンジケーキを製造し、それを使ったデコレーション実習も行います。生徒の手作りによる味噌を中心とする加工品は、北陵祭などで販売しますが、例年お客様の長蛇の列ができるほど盛況です。



酵母の分離実験



有機酸の定量実験



イチゴジャムの製造実習

また、1年生は、毎年、県内外の先進的な食品企業の見学研修をします。2年生のインターンシップでは、真岡工業団地や清原工業団地の食品工場、宇都宮や真岡市内の菓子店、パン屋、スーパーの総菜売り場等で実習を行います。12月頃には、調理専門学校の講師を招いて洋食実習の指導を受けます。3年生では、調理・製菓の専門学校での見学体験会を実施します。資格取得では、食生活アドバイザー3級、ボイラー取扱技能講習、危険物取扱者資格三種・乙種、ワープロ検定等にチャレンジし、大きな成果を上げています。

学科の生徒で組織されている食品科学同好会は、「地産地消」と「地域貢献」を目標に地元食材を使った商品開発の研究に取り組んでいます。各種イベントやコンテストに積極的に参加し、テレビ、ラジオ、新聞などのメディアから多数取材を依頼されるなど、その活動は各方面から高い評価を得ています。

(4) 総合ビジネス科

総合ビジネス科は、簿記やビジネス実務、情報処理など、商業（ビジネス）に関するさまざまな学習を行います。これらの専門知識やパソコン操作などの技術は、将来仕事に就く上でも大きな強みとなります。入学後、全員が新たなスタートラインに立って専門分野を学習するので、新鮮で活気があります。

また年間を通して資格取得に取り組んでおり、全国商業高等学校協会主催の簿記実務検定、ビジネス文書実務検定、情報処理検定など各種目とも1級合格を目指しています。この他にも日本商工会議所主催の簿記検定などにも積極的に挑戦しています。これらの成果は専門知識の習得にとどまらず、大学などの推薦入試や専門学校の特待制度に活かすことができ、高校卒業後、商業系大学やビジネス系専門学校へ進む上で大いに役立ちます。

商業機関見学なども実施しており、県外の企業を訪問したり商業施設を見学することで、ビジネスの現場における商業の役割や関わりについて、実際に見て学ぶことができます。また、毎年各種の競技大会や生徒商業研究発表大会などの大会に出場しており、電卓やパソコン操作が得意な人、プレゼンテーションに挑戦したい人が活躍できる学科でもあります。



県生徒商業研究発表大会企業賞



商業機関見学(東京証券取引所)

(5) 介護福祉科

介護福祉科は、人とふれあい、人を支えて、「心」を育む学科です。福祉に関する知識や技術を学び、施設での介護実習をとおしていろいろな人に接しながら実践的な学習を行います。

本校の介護福祉科では、介護福祉士の国家試験が受験できるカリキュラムを組んでいます。「介護福祉士」は、主に高齢者施設や障害者施設などで活躍していますが、国家試験の合格率は全国平均で約70%です。授業では、生徒一人ひとりに丁寧な指導を行っており、生徒同士が励ましあいながら意欲的に学習に取り組んでいます。その結果、平成29年度卒業生は、介護福祉士国家試験100%合格を達成しました。卒業生の多くは、介護福祉士として地元の福祉施設に就職しています。介護福祉科で学習したことを生かして、更に福祉に関する勉強を深めるために進学する生徒もいます。

また、社会福祉協議会や地域包括支援センター、消防署等の外部の専門職による講話や県内外での校外学習、レクリエーション活動など、多彩な授業を数多く行っています。これらの体験を通して、単に介護技術を学ぶだけでなく、人を思いやる優しさと人とふれあう楽しさを感じられる豊かな人間性をもった介護福祉士の育成を目指しています。



ベッドメイキング



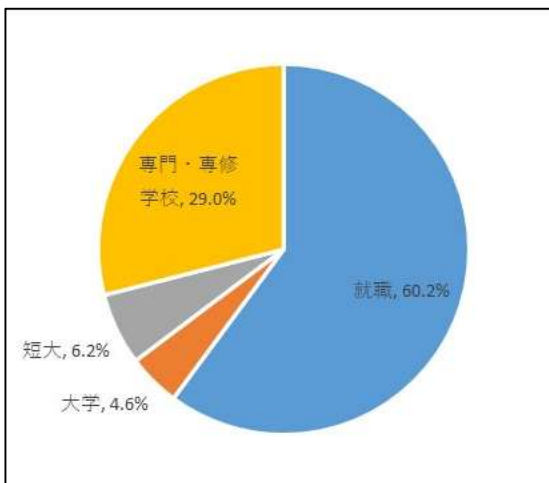
冷電法実習



医療的ケア（経管栄養）

III 進路状況

1 平成29年度卒業生の進路状況



2 おもな進路先（過去3年間）

(1) 就職

J Aはが野、丸永製菓、向島流通サービス、日産自動車、パイオラックス、花王、真岡製作所、千住金属工業、石橋総合病院、J Aうつつのみや、カルビー、キャノン、協和製作所、神戸製鋼所、東洋ビューティ、栃木銀行、日本郵便、本田技研工業、丸源飲料工業、ミットヨ、山崎製パン、リブドゥーコーポレーション、吉野工業所、宮島醤油、協和製作所、日立金属、宝栄工業、芳賀通運

(2) 進学

足利工業大学、植草学園大学、宇都宮共和大学、国際医療福祉大学、酪農学園大学、桐生大学、聖学院大学、國學院大学栃木短期大学、宇都宮文星短期大学、足利短期大学、作新学院大学女子短期大学、佐野日本大学短期大学、帝京短期大学、栃木県農業大学校、県南高等看護専門学校、県中央産業技術専門学校、国際情報ビジネス専門学校、宇都宮ビジネス電子専門学校、報徳看護専門学校、日産栃木自動車大学校、I F C調理師専門学校

IV 特別活動等の紹介

1 部活動

運動部	野球、サッカー、バドミントン、陸上競技、剣道、卓球、バスケットボール、弓道、柔道 バレーボール、ライフル射撃
文化部	日本音楽、被服、食物、吹奏楽、茶・華道、写真、文芸、商業、ボランティア、演劇
同好会	軽音楽、食品科学

2 学校内外の活動



北陵祭



野球部



ライフル射撃部



吹奏楽部

V 特色選抜について

1 定員の割合

生物生産科	20%程度	農業機械科	20%程度	食品科学科	30%程度
総合ビジネス科	30%程度	介護福祉科	30%程度		

2 出願するための資格要件

中学校で身に付けるべき基本的な生活習慣と基礎的な学力を備えており、次の(1)から(3)のうちの2つ以上に該当する者。

ただし、介護福祉科については、(2)を必須としたうえで、(1)か(3)のいずれかに該当する者。

- (1) 当該学科への志望理由や将来の進路目標が明確であり、意欲的に学習に取り組む意志が強い者
- (2) 資格取得に取り組むことや、各科における専門的な知識と技術を習得しようとする強い意志を持っている者（介護福祉科は、介護実習等に積極的に取り組み、介護福祉士の資格取得を目指す意志が強い者）
- (3) 中学校在学時に、校内外での部活動や生徒会活動、奉仕・社会福祉活動等に積極的に取り組み、優れた実績を挙げており、入学後も継続して活動する意志が強い者

3 選抜の方法

選抜方法	内 容
面接	個人面接、時間10分程度（口頭試問を含む）
作文	時間30分、字数400字程度

4 その他、特記事項

平成30年度県高体連重点強化拠点校（部活動名；ライフル射撃部）

5 選抜の手順等

【資料の取扱い】

- 1 志願理由書は、調査書とともに、資格要件の確認及び面接時の参考資料として用いる。
- 2 調査書については、次のとおり取り扱う。
 - ① 「各教科の学習の記録」（第1学年～第3学年）の評定（選択教科を除く）を合計する。（135点満点）
 - ② 「特別活動の記録」及び「行動の記録」は段階評価を行い、特に「行動の記録」を重視する。
 - ③ 「文化活動・スポーツ活動・社会活動・特技等の記録」は、資格要件に該当する実績及び活動状況について段階評価を行う。
- 3 面接及び作文は段階評価を行う。

【選抜の手順】

次の各段階に該当する受検者について順に、調査書の点数化されない部分の内容を考慮して総合的に選抜する。

第1次審議

【資料の取扱い】の2の①で点数化した部分の合計点数の順位が、特色選抜の募集定員の70%以内にある者（ただし、受検者が定員に満たない場合は、受検者の70%以内にある者）で、【資料の取扱い】の2の②及び3が良好である者を原則として、合格内定とする。

第2次審議

第1次審議で合格内定となった者を除いた受検者のうち、【資料の取扱い】の2の①、2の②および3の評価において適性があり、2の③の評価が優秀である者の中から合格内定者を選抜する。

第3次審議

第1・2次審議で合格内定となった者を除いた全ての受検者について、全ての検査結果を総合的に判断して、合格内定者を選抜する。